

令和元年7月相模原市教育委員会臨時会（第1日）

日 時 令和元年7月26日（金曜日）午後2時30分から午後4時48分まで

場 所 相模原市役所 第1特別会議室

日 程

1. 開 会

2. 会議録署名者の決定

3. 議 事

日程第 1（議案第17号） 相模原市立小学校で令和2年度に使用する教科用図書について（学校教育部）

日程第 2（議案第18号） 相模原市立中学校で令和2年度に使用する教科用図書（特別の教科道徳を除く。）について（学校教育部）

日程第 3（議案第19号） 相模原市立小学校及び中学校で令和2年度に使用する特別支援教育関係教科用図書について（学校教育部）

4. 延 会

出席した教育長及び委員（6名）

教 育 長 野 村 謙 一

教育長職務代理者 永 井 博

委 員 大 山 宜 秀

委 員 永 井 廣 子

委 員 平 岩 夏 木

委 員 岩 田 美 香

説明のために出席した者

教 育 局 長 小 林 輝 明 教育環境部長 渡 邊 志寿代

学 校 教 育 部 長 細 川 恵 生涯学習部長 大 貫 末 広

教 育 局 参 事 佐 野 強 史 教育総務室担当課長 江 野 学
兼教育総務室長 （総務企画班）

学 校 教 育 課 長 篠 原 真 学校教育課担当課長 宮 原 幸 雄
（企画・支援班）

学校教育課指導主事	河合光治	教育センター所長	浅倉 勲
教育センター担当課長 (研究・研修班)	加藤政義	教育センター指導主事	小林 岳有
教育センター指導主事	上田和子	教育センター指導主事	山上 啓介
教育センター指導主事	中島哲郎	教育センター指導主事	遠田 里美
教育センター指導主事	中里勝也		
事務局職員出席者			
教育総務室主任	島崎順崇	教育総務室主事	山本 健太

開 会

野村教育長 では、ただいまから、相模原市教育委員会 7 月臨時会を開会いたします。

本日の出席は 6 名で、定足数に達しております。

本日の会議録署名につきましては、岩田委員と私、野村を指名いたします。

相模原市立小学校で令和 2 年度に使用する教科用図書について

野村教育長 それでは、これより日程に入ります。

日程 1、議案第 17 号、「相模原市立小学校で令和 2 年度に使用する教科用図書について」を議題といたします。

本日の審議は、相模原市教科用図書採択検討委員会の調査、検討結果を参考にして採択を行ってまいりたいと思います。

また、本日の審議に当たりましては、提案の理由の説明については明瞭、簡潔にお願いするとともに、各委員の質疑、ご意見等につきましても、内容を精査の上、ご発言いただきますよう、お願いをいたします。

あわせて、発行者名につきましては、略称を用いて、敬称は省略させていただきたいと思えます。なお、各教科の種目ごとに採択を行い、全ての教科の採択が終了した後、議案第 17 号の採決を行いたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、事務局より説明いたします。

細川学校教育部長 議案第 17 号、相模原市立小学校で令和 2 年度に使用する教科用図書について、ご説明申し上げます。

本議案は、相模原市立小学校で令和 2 年度に使用する小学校の教科用図書を採択いただきたく提案するものでございます。

初めに、教科用図書の採択につきまして、これまでの経過をご説明いたします。

恐れ入りますが、議案とは別に配付しております議案第 17 号参考資料 2 をご覧いただきたいと存じます。

図の中心に相模原市教育委員会がございまして、教育委員会では、5 月定例会におきまして、教科用図書の採択基本方針及び調査研究の観点について決定し、その結果を踏まえまして、5 月 20 日に学識経験者や保護者、学校代表等で構成する、第 1 回教科用図書採択

検討委員会を開催いたしました。

採択検討委員会では、採択基本方針に基づき、必要な事項の調査研究を行うため、教育委員会から任命された調査員が5月から6月にかけて調査研究を行い、調査結果報告書としてまとめ、検討委員会に報告いたしました。

また、市立小学校72校に学校意向調査を依頼し、その調査結果をまとめました。

これらの取組と併せまして、広く市民の方々に教科用図書をご覧いただくために図の左にございます、教科書展示会を6月4日から市内2カ所の教科書センターと臨時会場1カ所にて開催してまいりました。

7月4日、7月9日には、第2回及び第3回教科用図書採択検討委員会を開催し、調査結果報告書、学校意向調査、教科書見本本、文部科学省が公開する教科書編集趣意書等の資料に基づきまして協議を行い、検討結果報告書を確定いたしました。

以上が、これまでの教科用図書採択に係る経過でございます。

教育委員の皆様におかれましても、実際に教科書をご覧いただき、研究を進めていただいているところでございます。

本日は、採択検討委員会の検討結果を事務局である学校教育課及び教育センターからご報告申し上げます。

本市の採択の基本方針に則り、採択検討委員会の調査研究の結果等を参考に、本市の学校、児童、地域等の特性を考慮し、議案第17号関係資料、令和2年度使用小学校用教科用図書目録の中から種目ごとに1種の教科用図書を採択いただきたいと存じます。よろしくご決定くださいますようお願い申し上げます。

それでは、詳細につきまして、教育センター所長からご説明申し上げます。

浅倉教育センター所長 それでは、採択検討委員会の検討結果をご報告いたします。

採択検討委員会では、各教科の種目ごとに、目指す授業像を実現するために重視する観点を絞り、相模原市の子どもたちの実態に照らし合わせて検討をいたしました。

本日は、その結果につきましては、各教科、種目別にご報告いたします。

それでは、社会の報告をさせていただきます。

社会科は3者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、新学習指導要領に示されている「社会的な見方・考え方」に基づいた問題解決型の授業づくりがなされるよう、学びのプロセスが具体的に示されているものが多く見られました。

また、我が国の国土の理解や歴史の文化を大切にし、よりよい社会の形成に参画する資

質や能力を養うものとなっていました。

検討委員会では、学んでいることと自己と将来とのつながりを見通すことができ、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる力を身につけることができる内容が扱われているか。よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うことができる内容であるか、という点等を重視し、検討の結果、東京書籍の『新しい社会』及び教育出版の『小学社会』が推薦されました。

それでは、2者の特徴的なページについてご説明いたします。

初めに、東京書籍でございますが、観点12について5年生下の56ページ、A12の附箋がついているページをご覧ください。

情報があふれる社会について、パソコンやスマートフォンだけでなく、避難所での手書きの掲示情報も取り上げ、生活の中にある多種多様な情報媒体について総合的に考え、理解することができるようになっていきます。

また、観点14につきまして、3年生の51ページ、A15の附箋がついているページをご覧ください。

農家の仕事について生産者の思いに触れながら「せんでんシールをつくる」という具体的な学習活動は、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うための工夫であるといえます。

続いて、教育出版の『小学社会』でございますが、観点13につきまして、3年生の92、93ページ、B15の附箋がついているページをご覧ください。

単元と単元のつながりを意識した構成となっており、最初に学習する消防署のことだけでなく、その次に学習する警察署や、さらには電力会社の人たちも地域の安全を守るために協力しながら働いている様子について、大きな1枚の資料から気づきを促すための、効果的な資料の提示がありました。多様な見方ができる教材を使い、社会的事象の特色や相互の関連を捉え、社会との関わり方を選択・判断できるような内容となっています。

次に観点11につきまして、6年生の273ページ、B11の附箋がついているページをご覧ください。

学んだことを振り返るとともに、中学校での学習内容の紹介、18才の選挙権の事例の紹介へと続いております。小学校での学習が将来、主権者意識を持ち社会の一員として生きていく態度を養うことができる内容となっています。

以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

野村教育長 説明が終わりました。では、これより質疑、ご意見がありましたらお願いをいたします。

平岩委員 ご説明ありがとうございました。2つお伺いしたいことがあります。

まず、1つは本市における社会科の授業の様子について、それからもう1つ、どのような授業を目指しているのかということについて教えてください。お願いいたします。

小林教育センター指導主事 社会科においては、教師の課題提示のもと、子どもたちが課題に対して自分の考えを出し合う言語活動を取り入れた授業が行われております。子どもたちが主体的に課題に取り組むためには、資料をもとに課題をつくり、問題解決型の学習を展開するようにしています。

大山委員 社会科の授業におきましては、課題解決型の授業展開を進めているのですね。そのような授業展開を進める上で、教科書に特徴的な部分がございましたらご紹介ください。

小林教育センター指導主事 問題解決型の授業展開を進めていく上で、必然性のある学習課題をつくり、基礎的・基本的な学力の定着を図ることが大事です。東京書籍、教育出版ともに5年生の「自動車生産にはげむ人々」では、空からながめた自動車工場の写真が示してありました。教育出版の構図の中には、工場の全体図を示すだけでなく、単元後半の「部品はどこから」、「完成した自動車のゆくえ」につながる「海」の存在を取り入れており、子どもたちが大きく学習を見通せるような資料提示が行われておりました。

大山委員 単元全体を見通した課題づくりが大事だということはよく分かりました。

ところで、社会科の場合、相模原の子どもたちが相模原の地でしっかりと社会を見渡しながらかんでいくということがとても重要だと思います。そういう視点から見ますと、相模原市にしっかり根差したというところと言えるような記載等が教科書にございましたらお示しいただきたいと思います。

小林教育センター指導主事 教育出版社4年生52ページからの「水はどこから」をご覧ください。

こちらでは、単元全体を通して相模原市のダムや浄水場を扱っています。その他の例としても神奈川県各地が扱われており、子どもたちが身近に捉えながら学習できるようになっております。

大山委員 なるほど、「潤水都市さがみはら」というキャッチフレーズがある相模原市の特色を余すことなく網羅していることが分かりました。

平岩委員 今、大山委員がおっしゃったことは私も同じように感じます。教育出版5年生の教科書には、中小企業の工場についても記載がありました。相模原市には中小企業が多くありまして、世界的にも誇れるような技術を有する企業もあります。このように工業のまちである相模原市にとって、身近な話題が取り上げられているのはとてもいいことだと思います。

それから、もう1つ、教育出版の6年生の教科書では囲みのコラムとして、沖縄の「わすれてはならない歴史」というのが取り上げられていました。さらに、アイヌ文化ですとか、北海道、ロシアの関係についても触れられておりまして、今、様々な情報が子どもたちの耳に入る時代になっていますけれども、そういった中、それから今の政界情勢から見ましても、しっかりとした表現で正しい知識を子どもたちが最初に学ぶことはとても大切だと思います。

大山委員 問題解決型の学習の中で、児童が主体的に取り組むことができる教材を活用して、基礎的・基本的な知識や、資料活用力等を育成できる構成となっているとともに、重視すべき学習内容が系統的に配置され、基礎・基本の定着を図るのに適していると感じられました。

永井教育長職務代理者 問題解決型の授業を進めるということは、社会科においても基礎・基本の着実な定着ということが求められているのだと思います。

この点においては、2者の教科書では、どのような内容になっているのか教えていただきたいと思います。

小林教育センター指導主事 東京書籍では、詳しい幅広い資料を提示する中で、知識を基盤として、課題に対する答えを考えさせるような構成となっておりました。

一方、教育出版は資料から子どもたちの気づきを促し、課題が自分ごととなっていくような構成から、問題の解決へ向けて主体的に学ぶ力を育むものとなっております。

永井教育長職務代理者 教育出版の教科書には、「学び方の手引き」というものがあります。これからの時代、学習内容を教えることはもちろんですが、自分自身でどのように学んでいくのか、どういう学び方をするか、こういうことを指導することが大変重要だと考えています。

大山委員 歴史の年表を見てみると、教育出版のものは、一目で分かるように工夫されています。児童にとりまして、今何を学んでいるのかが捉えやすく、よいのではないかと思います。

永井（廣）委員 教育出版の教科書では、選挙について、国民審査のことなど、丁寧に記載がされています。選挙を身近に感じ、投票の大切さをしっかり学ぶためにもこの教科書は分かりやすくとてもよいと思いました。

また、東京書籍の教科書では、市役所のはたらきについて書かれておりました。相模原市の市役所について考えることにつながるのではと思いました。

野村教育長 ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ここまで各委員の皆様からいろいろな視点からご意見をちょうだいいたしました。

特に、主体的に問題解決をしようとする態度を育てること、また地域の題材を多く扱っている、こうしたことから皆様方の意見を総合しますと、教育出版が適しているという、そういったことで受け取りました。

今までの意見交換、あるいは協議の中で、ご意見がございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

野村教育長 それでは、社会につきましては、教育出版の『小学社会』を採択することでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

野村教育長 ご異議ございませんので、社会については、教育出版の『小学社会』を採択することにいたします。

では、続いて、地図に入ります。説明をお願いします。

浅倉教育センター所長 それでは、地図の報告をさせていただきます。

地図は2者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、新学習指導要領に示されている位置や空間的広がりなどの「社会的な見方・考え方」の育成が意識された構成となっています。

また、今回の学習指導要領改訂により、従来4年生から使用していた地図帳が3年生からの使用へと変更になったことから、初めて手にした子どもたちにとって親しみやすいように、イラストや吹き出しが多く使われるなどの工夫が多くあります。

検討委員会では、基礎的・基本的な学習内容を定着させるため、段階的に繰り返し学習させる内容は充実しているか。どのような地理的事象が見られるのか、それがなぜその地域に見られるのかなどについて、地図から読みとったり、地理的事象を追求し、捉えたり

する技能を身につけられる工夫がされているかという点等を重視し、検討の結果、東京書籍の『新しい地図帳』及び帝国書院の『楽しく学ぶ小学生の地図帳』が推薦されました。

初めに、東京書籍の『新しい地図帳』でございます。

観点5につきまして、14ページ、A6の附箋がついているページをご覧ください。

地図の基本的な使い方に関しては、縮尺についてのスケールを使った測定方法や、地名を、索引から地図帳のどこにあるかを探し出す方法を具体的に例示するなどして、基礎的・基本的な学習内容の定着のため、段階的に繰り返し活用させるための内容が充実しています。

次に、観点12につきまして、97ページ、99ページ、A12の附箋がついているページをご覧ください。

自然災害や防災について正しく理解できるように国土全体の特徴をつかませるとともに、写真資料などを活用し多角的に考察することができるように工夫してあります。

続いて、帝国書院の『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』でございます。観点5につきまして、帝国書院の20ページと34ページの、B7の附箋がついているページを併せてご覧ください。

広く見渡す地図と都道府県を見渡す地図の2種類が段階的に表記され、学習の目的に応じて使い分け、基礎的・基本的な学習内容を定着させるため、繰り返し活用させるための内容が充実しています。

次に、観点13につきまして89ページ、90ページ、B17の附箋がついているページをご覧ください。

同じ縮尺の地図を用いて、季節や主な都市の気温や降水量、地理的事象についてそれぞれの地域の特徴をより分かりやすく提示しており、地図やグラフなどを比較しながら地理的事象を読み取ったり追求し、捉えたりする技能を身につけることができる内容となっています。

以上で報告を終わります。よろしく願いいたします。

野村教育長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見がありましたらお願いをいたします。

永井(廣)委員 まず、社会科の授業において、地図帳をどのように活用しているのかご説明いただけますか。

小林教育センター指導主事 地図帳の活用ということでございますが、例えば、我が国の

国土や国内の産業構造を学ぶ5年の場面におきまして、調べたい対象となる地域や位置、それから面積、自然や人口、産業や土地利用などの基本情報を把握する際に活用する場面が多くあります。

そのほか、歴史的分野の学習では、歴史的な建物や、歴史的事件の起きた地名などを調べたりする際に使っております。

永井（廣）委員 どのように地図帳を用いて授業が行われているかが分かりました。

今回の検討の中で、両者の地図帳に何か特徴的な部分はありましたでしょうか。

小林教育センター指導主事 日本列島の位置、日本の東西南北端、近隣諸国の名称や位置など、日本とその周辺の概要が捉えやすくなっております。

帝国書院は、地理的環境を認識しやすい地図表現となっております。東京書籍は各地域のページにおきまして、市区町村名が細かく示され、詳細な情報が身につくような工夫がございました。

大山委員 帝国書院のものにつきまして意見を述べさせていただきます。

3年生が初めて使用する地図帳として見たとき、地図の成り立ちや地図記号の理解、索引の引き方など、地図の使い方に関するページが充実しております、子どもが理解しやすいものとなっていると思います。

また、日本列島の位置、日本の東西南北端、近隣諸国の名称や位置など、日本とその周辺の概要が捉えやすくなっております。特に経線や緯線が見やすく、国土の全体像を明確に捉える工夫がされ、さらに等高段彩表現と陰影表現と呼ばれる技法を用いまして、地理的環境を認識しやすい地図表現となっております。

以上です。

永井（廣）委員 東京書籍の地図帳は、情報が充実している印象を持ちました。豊富な情報から必要なものを児童が選択することも必要な力だと考えます。

一方で、情報が多すぎることで何を選択すればよいのか混乱してしまうことも考えられますね。

永井教育長職務代理者 大山委員がおっしゃったように、帝国書院は児童にとって大変見やすい色づかいになっている、このように思います。

岩田委員 2者のどちらにも記載がないので、今後の課題としてということでの意見になるのかと思うのですが、世界地図のところで、海外で使われているような、日本が中心に位置していない世界地図があるといいなと思いました。

それによってやはり、日本が真ん中ではない地図をみんな見ているので、世界における日本の位置だとか、それについてより多面的、もしくは相対的に捉えることにつながるのではないかと思いました。

平岩委員 日本の国土ということていいますと、どちらの地図帳ともに、見開きの日本地図というのが掲載されていますけども、その中で帝国書院のものなのですが、沖縄ですとか、小笠原などの位置が一目で正確に捉えられるのが大変にいいと思いました。沖縄、小笠原の位置なのですけれども、大人でもどの辺にあるのか、意外と知らない方が多いように思います。

先ほども説明にありました、今改めて見ていまして、縮尺の違う地図がしっかり入っているというのも位置関係が大変よく分かるということで、私は帝国書院がいいなと思います。

永井（廣）委員 私自身の経験としては、子どものころに地図帳を読むことがかなり好きで、読むことを通して、地域の名産や高低差などがわかったり、いろいろな情報を読み取ったりすることができて、長期休みのときなどにはその場所に行ってみたいという興味が地図帳を見ることによって持つことができました。

現代では、インターネット等を活用すれば、本当に簡単にその場所を見ることができますが、子どもたちには、地図帳を読むことを通して、物事を想像するというのを楽しんで欲しいと思っています。

帝国書院の地図帳は、子どもの想像力を育むのに適しているのではないかと思います。
野村教育長 ほかにございますか。よろしいでしょうか。

ここまでの皆様のご意見を総合的にくみ取りますと、子どもにとって見やすく、そして、地図の読み取りから想像力を育むのに適しているのは帝国書院というお話が多かったと受け取りました。

今までの意見交換、あるいは協議の中で、改めてご意見がありましたらお願いをいたします。特にございませんか。よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

野村教育長 それでは、地図については、帝国書院の『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』を採択することでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

野村教育長 ご異議ございませんので、地図については、帝国書院の『楽しく学ぶ 小学

生の地図帳』を採択することにいたします。

ここで、教科書の入れ替えをいたします。

それでは、続いて、算数の教科書の採択に入ります。説明をお願いします。

浅倉教育センター所長 それでは、算数科の報告をさせていただきます。

算数科は、6者から教科書が発行されております。全体的な特徴としましては、新学習指導要領に示されている「算数・数学の問題発見・解決の過程」を想定した授業づくりがなされるよう、問題発見の場面から解決までのプロセスが具体的に示されているものが多く見られました。また、数学的な見方・考え方、思考力・判断力・表現力を育むための記載においても各者の工夫が見られました。

検討委員会では、扱われている題材や課題が児童にとって、主体的に学びに向かうことのできる内容であり、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」をバランスよく育むことのできる構成となっているか、また、授業の中で身につけた資質・能力が日常生活や将来にどのように役立つのか、その有用性を実感できる内容であるかなどの点を重視し、検討が行われました。

検討の結果、東京書籍『新しい算数』及び大日本図書『たのしい算数』が推薦されました。

初めに、東京書籍についてでございます。

観点9につきまして、1年の4、5ページ、A7の附箋がついている箇所をご覧ください。

掲載されております動物や椅子などの数を児童が数える際、ブロックを使った操作を行います。B5版の教科書では、教科書を見開いたときにできる傾斜のため、ブロックがすべり落ち、うまく操作できないことがございました。操作的な活動を多く含む1年の教科書がA4版に拡大されており、発達段階に配慮されています。

次に、観点13につきまして、6年の174、175ページ、A10の附箋がついている箇所をご覧ください。

「考える力をのばそう」では、1つの事象を読み解き、解決する手立てとして、図や表、式を関連付けて使っている様子が具体的に示されています。

続きまして、大日本図書の教科書の方の説明に移ります。観点1につきまして、3年の15から19ページ、B1の附箋がついている箇所をご覧ください。

各単元の課題解決学習を想定した時間が「じっくり深く学び合おう！」と設定されてお

り、児童の発言や思考の内容が具体的に例示されています。問題発見から振り返りまでがイメージしやすく掲載されていることで、児童にとっても教師にとっても学習の進め方が分かりやすくなっており、児童が主体的に学習に取り組みながら思考力・判断力・表現力を高める工夫がなされています。

次に、観点2につきまして、1年生の教科書をお願いします。168ページ、B2の附箋がついている箇所をご覧ください。

プログラミング的思考の育成を図るため、各学年に「プログラミングにちょうせん！」のページが設けられています。1年から4年までは、コンピュータを使わずに学習できるような教材が用意されており、5、6年からは、コンピュータを用いてプログラミング教育を行う設定となっております。低学年のうちから段階的に、発達段階に応じたプログラミング的思考の育成を図る内容となっております。

以上で、報告を終わります。よろしくお願いいたします。

野村教育長 これより質疑、ご意見がございましたらお願いいたします。

平岩委員 特に小学校で学ぶ算数の基礎というのは非常に重要だと考えます。そこで、子どもたちが算数についてどのように思っているのかというのが大変気になるところなのですが、相模原市における算数科の教育の現状と、それから授業で大切にしていることについて教えていただけますか。

中里教育センター指導主事 まず、本市の現状についてということで、全国学力学習状況調査の質問紙の結果をもとにお話をさせていただきたいと思います。

全国学力学習状況調査の質問紙というものの結果なのですが、「算数の勉強は好きですか」という質問に対しては、肯定的な回答をしている児童が多く、全国と比較して同程度となっております。

しかしながら「算数の授業の内容はよく分かりますか」や「算数の勉強は大切だと思いますか」という質問に対しては、肯定的な回答をしている児童の割合が低くなっており、「内容の理解」や「算数の有用性」への実感というところでは課題が見られるという現状でございます。

端的に言えば、「算数は好きではあるが、内容の理解ができない、役に立つとは思えない」と感じている児童が多いのが現状です。

授業で大切にしていることとしましては、児童が主体的に課題に取り組むことができることです。また、課題の解決を経て、学びを自覚できるようにすることです。

つまり、新学習指導要領の解説に示された「算数・数学の問題発見・解決の過程」が想定された授業が実践されることが望まれるといえます。

平岩委員 そうしましたら、相模原市が目指している授業に向けて、今回の教科書で特徴的なことがあったかどうかというのを教えてください。

中里教育センター指導主事 先ほど、冒頭での説明の中にもございましたが、大日本図書の3年の15ページから19ページのところをご覧くださいと思います。

B1の附箋がついているところですけども、ここが特徴的かと思います。課題の設定からまとめ、振り返りまでが具体的に示されおりました、算数の学習のプロセスが意識されたものとなっています。

永井教育長職務代理者 東京書籍1年生の教科書では、ブロックを用いた学習が大変工夫がされた形で載っているわけですけど、このブロックを活用した学習というのはどこの学校でも行われているのでしょうか。ご意見をお願いします。

中里教育センター指導主事 ブロックを使った操作についてですが、こちらにつきましては多くの学校で行われていることであります。

学校ごとに教材として準備するものでございまして、採択する教科書に準じて扱われたり、扱われなかったりということはありません。扱いやすさという点につきましては、東京書籍の教科書に工夫がありました。

永井(廣)委員 大日本図書の1年生の教科書での、教科書を開いたときの右側にブロックを用いた学習ページを設けて、開いて段差のない状態で学習できるようになっていて、操作的な学習をしやすい工夫というのはされていると思います。

永井教育長職務代理者 他者の教科書では、6年生以外は上下分冊されているものが多いように感じますが、大日本図書の教科書では、全学年において1冊になっています。このことについては、検討委員会では何か検討が行われたのでしょうか。

中里教育センター指導主事 分冊のことについては、検討委員会では1冊になっていた方が、学習の振り返りがいつでもできるという点においてよいのではないかという意見が聞かれました。また、学校意向調査におきましても、同様の意見が複数見られたように思います。

永井教育長職務代理者 授業中に必要なときに、以前に学習したことに戻ったりするためには、1冊の方がいいのかもしれないと思います。児童が振り返りをしたり、復習したりするのに役立つのではないかと思います。

また、先ほどの説明の中で、問題解決型の学習が求められているということでしたが、2者の教科書においては、それぞれどのように扱われているのか教えていただきたいと思います。

中里教育センター指導主事 2者とも、算数の学習の過程というものを意識した構成になっていたかと思います。

東京書籍の5年生上44ページ、45ページを開いていただければと思います。また、大日本図書の5年生の44ページ、45ページ、同じページになりますが、開いて見比べていただければと思います。

東京書籍は、課題に対するまとめというのが次のページにくるような構成が複数箇所見られました。大日本図書の教科書では、ページの一番上に授業の課題・めあてが、中段に解決の手立てが、下段に「発見！」として授業のまとめが構成されています。

多くのページがこの構成でつくられており、課題に対して、まとめというのが一目で分かるようになっております。

永井教育長職務代理者 問題解決の流れが一目で分かるような構成であれば、児童にとっても、問題解決の方法を意識して繰り返し学ぶことにつながると思います。そのようなことで、実社会においても課題に出会ったとき、どういうふうに解決すればよいか考えたり行動したりする力が身につくのではないかと思います。

平岩委員 今、1ページにまとまっているか、ページをめくるかというお話がありましたけれども、私は1ページにまとまっている大日本図書の方が見やすく感じました。

東京書籍のつくりは、ページをめくらないと解決の結果が見えないような工夫なのだと思いますけど、子どもたちにとって、先生方にとっては大日本図書のつくりの方が分かりやすそうだと感じます。

岩田委員 子どもたちの授業に実際に参加というか、拝見させていただく機会もあるのですが、算数という教科の特徴は比較的ほかの教科に比べて、苦手意識を持っているお子さんが多いように見受けられます。

算数の場合はやはり解ける、解けないというところで学力に差が出やすい科目なので、決まった時間の中で解ける問題の数にも差が出やすいのかなと思うのですが、その点は配慮されている工夫みたいなものはありますでしょうか。

中里教育センター指導主事 演習問題の設定についてですけれども、こちらにつきましては2者ともに工夫が見られました。

具体的に申し上げますと、設定されている問題のうち、全てを解ききれない児童につきまして、数問に絞って問題演習ができるよう、問題や問題番号に色がついているものが数問設定されており、「青色のしるしがついているものだけ解いてください。」など、先生が具体的に指示できるような工夫がされております。

岩田委員 様々な工夫がされているということは理解いたしました。

先ほど言ったように教科の特徴として、特に算数というのは積み上げ的で、基礎とか基本のところの定着が大事なのかなと考えています。その点、学習のプロセスということが児童にとって、また先生にとっても分かりやすいことはさらに有効なのかなと。

大日本図書の方が、問題発見から振り返りというところまでがイメージしやすいというので分かりやすく構成されていて評価ができるかなと思いました。

大山委員 私も基礎・基本の定着を図るということは、重要だと思います。加えまして、学習を深めたり補充したりすることも同じように重要ではないかと考えますけれども、2者の教科書におきまして、その点の工夫があれば詳しくお教えいただきたいと思います。

中里教育センター指導主事 計算などの演習において、問題を早く解き終える児童については、東京書籍では「ほじゅうのもんだい」、大日本図書では「プラス・ワン」というものが用意されてございます。問題量はどちらも十分ではないかという検討の結果がありました。

平岩委員 今の苦手なお子さんに対する絵の配慮とか、工夫というものの反対側ということになると思うのですが、どちらも、学習しているページから巻末のページへの誘導があって、もう少しやりたいという生徒にとってうれしい工夫があると思います。

やる気のある子どもたちの気持ちをどんどん伸ばすということも、やはりこれは大事なことだと思います。そういった意味では、使い方についても同じように両方とも使えそうだと思います。

大山委員 巻末の問題につきましては、家庭学習での教科書の活用にもつながり、よさそうに思います。

岩田委員 先ほどの話題に戻ってしまうのですが、先ほど、プログラミングの教育について説明があったのですが、この2者のプログラミング教育における違いについて、もう少し説明をお願いいたします。

中里教育センター指導主事 2者のプログラミング教育での違いについてですが、2者ともプログラミング教育を設定したページが設けられております。

違いとしましては、大日本図書が1年から6年までの6年間を通じて扱うのに対して、東京書籍は5年生、6年生の2学年に絞って扱われている点で違いがございます。

本市では、1年から6年を通じてプログラミング教育のカリキュラムというものを編成しておりまして、その点においては、大日本図書の想定が合致しているというような意見が検討委員会で出ました。

また、プログラミングソフトScratchを使ってプログラミング教育を行っている点につきましても、大日本図書と合っておりまして、児童、それから先生も使い慣れているという点でよいのではないかとということで検討委員会の中で意見がありました。

岩田委員 確かに、使い慣れたソフトで学習できるというのは子どもにとってもいいのかなと思いますし、もう一度説明のあったところを低学年のところから段階的に見ていくと、説明にあったように1、2年では迷路のことをやっていて、3、4年ではアルゴリズムのフローチャートを示していて、コンピュータの考え方なみたいなことで、5、6年でプログラムという構成に確かになっているというので、段階的に学習できるという構成になっていると思います。

また、ちょっと別のことなのですが、先ほど、本市の課題の中で、「有用性」という言葉が出てきたのですが、算数が将来に役立つという「有用性」みたいなものが感じられる工夫というのはテキストの中にはあったのでしょうか。

中里教育センター指導主事 「有用性」についてでございますが、「有用性」を実感するためには、算数が日常生活とどうつながっているのか、また将来とどうつながっているのかを理解する必要があるかと思います。

その点につきましては、大日本図書の6年生の220ページ、B11という附箋がついているページをご覧くださいいただければと思います。

こちらのページに、「ふくろう先生になるほど算数教室」というのがございます。算数お仕事インタビューを掲載しており、3年生から6年生までにこういったインタビューが4つ掲載されております。

算数が将来とどうつながるのが分かるようになっており、算数の有用性を実感できる工夫がされているといえます。

平岩委員 今のお話の中で将来とつながるという言葉が出てまいりましたけれども、この将来につながるというのは、相模原市が進めているキャリア教育の視点を取り入れた教科書であるといっていると思います。

永井（廣）委員 私も算数が将来に役立つという意識を育てるといのはとてもいいことだと思います。子どもにもよく、「お母さん、こんなの大きくなって使うの」って、聞かれたりしましたけれども、「大きくなって何をやりたくなるかわからないから、できるようになっておいたほうがいいわよ」というような答え方をよくしていたのですが、本当にこれになりたいと思ったときに使えるようになるというのはちょっとでも心の中で、引っかかっていてくれば、将来のモチベーションというのも違うと思いますので、ぜひ、そういう学習意欲につながるような教科書で教えてもらいたいなと思います。

永井教育長職務代理者 本市の進めてきている教育と合致する教科書、このことは非常に重要なことだと思います。

以上です。

野村教育長 ほかにはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ここまで各委員の皆様からいただきましたご意見では、本市の進めるキャリア教育の取組と合っている点、それからページ構成のよさ、プログラミング教育への取組、こうした視点から大日本図書がよいのではないかというふうに、そういうご意見だったように受け取りました。

今までの意見交換、あるいは協議の中で、他に何かございましたらお願いします。

（「なし」の声あり）

野村教育長 それでは、算数については、大日本図書の『楽しい算数』を採択することでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

野村教育長 ご異議ございませんので、算数については、大日本図書の『楽しい算数』を採択することといたします。

では、ここで休憩に入ります。

再開は3時40分といたします。

（休憩・15：26～15：40）

野村教育長 では休憩前に引き続き、会議を続けます。

続いて、理科の採択に入ります。事務局より説明いたします。

浅倉教育センター所長 それでは、理科の報告をさせていただきます。

理科は、6者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、新学習指導要領に示されている、問題解決の活動を充実させる内容になっております。

具体的には、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果をもとに考察し、結論を導き出すなどの内容です。また、日常生活や社会との関連を重視する記載についても重点が置かれた編集がなされております。

検討委員会では、知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力等を育めるよう、理科の見方・考え方を働かせながら、問題を科学的に解決する学習活動の充実に配慮された内容であるか。また、児童の問題解決を促す情報が豊かであるかという点等を重視し、検討が行われました。

検討の結果、東京書籍の『新しい理科』及び啓林館の『わくわく理科』が推薦されました。

初めに、東京書籍についてご説明いたします。観点11につきまして6年生の教科書について、巻頭ページと10ページのA3の附箋がついているページをご覧ください。

ここには働く人が紹介されており、また10ページなどの「理科のひろば」では、働く人の活躍が記載されています。理科を学ぶことが、将来に役立つことを実感できる内容になっています。

続いて観点13について6年の15ページのA10の附箋がついているページをご覧ください。

「レベルアップ理科の力」では観察・実験を行うための考え方を学ぶ活動が設定されており、思考力、判断力、表現力等を育めるようになっています。

続いて啓林館の教科書の説明に移らせていただきます。

観点12につきまして、6年212ページのF4の附箋がついているページをご覧ください。

全学年に「ものづくりの広場」のページがあり、学んだことを活用できる内容となっており、ものづくりの活動の充実が図られています。

また、観点13につきまして、4年の78ページのF5の附箋がついているページをご覧ください。

問題に対して予想を立て、結果を見通しながら計画を立てることについて具体的な事例が挙げられており、問題解決の活動を充実させていく内容となっております。

以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

野村教育長 説明が終わりましたので、これより質疑、ご意見がありましたらお願いをいたします。

大山委員 相模原市にはJAXAという宇宙科学に興味を持つような施設もありますし、また「若あゆ」、「やませみ」がございまして、体験学習が十分にできると思うのですが、こういった施設を活用いたしまして、本市の子どもたちが理解の学習をどう学ぶというか、そこでの現状等をお聞かせいただければと思います。

中島教育センター指導主事 本市の現状としまして、若あゆ、やませみでは、ペットボトルロケットの製作や自然観察など、児童がそれぞれの課題について体験活動を通して解決していく、そのような学習が充実しております。

しかし、体験の機会に恵まれている一方、授業では児童一人ひとりが考えを持ちながら問題解決に取り組むことにつながっていない現状もあります。

また、全国学力学習状況調査結果からは、児童が理科を学ぶことの有用性、そこが実感できていないということが分かっております。

大山委員 今ご説明がありましたけれども、充実した体験活動を授業に生かすためには、まず児童が興味を持つことが大切かなと思います。理科が好きだと児童が思えるようになるためには、どのような授業が求められているのでしょうか。

中島教育センター指導主事 理科の楽しさは、自然の事物・現象についての問題解決、そこにあります。

一人ひとりの児童が思いを持ちながら予想や仮説を立てて実験を行うことや、実験結果から分かること考え、結論を出すことができるような授業が、児童の興味関心を高めると考えます。

そのためには、児童が見通しを持って問題解決を行えるように、問題解決の過程を明確に示す必要があると考えます。

大山委員 理科におきまして、求められている授業像というものが分かりました。主体的な問題解決型の学習を進めるに当たりまして、この2者での工夫、あるいは特徴というか違いというか、お教えいただきたいと思います。

中島教育センター指導主事 2者ともに、問題解決の過程を言葉で示しており、見通しを持ちながら主体的に問題解決を進めていくことができる内容になっております。

その上で、東京書籍では「理科の見方・考え方」が「理科のミカタ」として、問題解決の過程に示されています。啓林館では、巻末に、「理科の見方・考え方」が示されていません。

また、東京書籍はA4サイズであり、対話の具体例が多く示されるなど、問題解決の活

動を促す情報が学習の過程に示されています。啓林館では、巻末に豊富な資料が示されており、理科に必要な技能を分かりやすく整理しております。

大山委員 今、ご説明を聴きまして東京書籍の教科書では、理科の見方が明示されて、新学習指導要領で重きを置いている理科の見方・考え方を働かせて、問題解決の活動に取り組むことができるように配慮されているものと感じました。

理科の見方・考え方とはどういうものなのか。そして、その見方・考え方をどのように働かせるのかというのが、授業での大きなポイントになるように思います。

平岩委員 子どもたちが、考え方のプロセスとか、考える方法を学ぶということはとても大事だと私は思うのですが、東京書籍の方の教科書を見ますと、「問題をつかもう」、「観察（実験）」、「結果」のように考え方の流れが明確に示されているような気がしまして、子どもたちが考え方のプロセス、考える方法を学ぶにはとても適していると思いました。

それから、5年の巻末にある赤ちゃんの育ち方の実物大の資料なのですが、これは大変素晴らしくて、人の生命の誕生について考える教材としていいと思います。

永井（廣）委員 東京書籍の5年生と6年生の教科書には、6年生でいうと5ページなのですが、「学ぶ前の私」と「学んだ後の私」という内容が記載されています。これは、学ぶ前と学んだあとの自分の考えを比べることができて、児童が学習を振り返る際に役立つ、自分の成長が分かるという意味でとてもよいと思います。

また、相模原市でも推進しているSDGsが取り上げられていて、児童一人ひとりが自分にできることを考える機会になると思います。この2者では環境教育への記述はどのようになっていますか。

中島教育センター指導主事 東京書籍では持続可能な社会への意識を高めるために、ESD、SDGsへの取組の記載があります。学んだことを使って、持続可能な社会を構築するために自らできることを考える場面が設定されております。

啓林館では、「自然を大切に」のマーク表示で環境を意識できるようになっています。環境については、ESDの視点から、身近な生活場面をもとに児童が未来志向で考え、実践できることが大切にされています。

岩田委員 ちょっとほかの点で、ノートの書き方についてどちらの教科書も、もちろん触れているのですが、東京書籍の6年生のときのノートの書き方の記載のところはほかのものとは違って、自分の考えが変わったときに消しゴムで消すのではなくて、あえ

て赤の線で斜線を引いて、その自分の新しい考えを書くという形で、学習のプロセスで自分の考えがどういうふうに変ったのか、その変化が分かるような記述の工夫がされていて、これは私として評価ができると思いました。

永井（廣）委員 東京書籍の教科書なのですからけれども、まず3年生の教科書を開いていただくと、開いたところでまず、「なんで？」と、こういう疑問形から始まっているのですね。おがもみが服につくのなんでって、これは結構、原っぱとかに入るとくっついて、うわーって思って、なんでって思うような体験をしたことがある子どももいるのではないかと思うのですけれど、この「なんで？」という疑問、そういうものを考えると、4年生も見開き、この表紙をめくると、まずコップが汗をかいていると書いてあって、これも、どうして、なぜだろうということ自分なりに、まず予想してみて、汗の正体は理科を学んでからの楽しみってなっているんですね。

5年生のものを開くと、どこまで生卵、どこからがゆで卵となっていて、本当に私も、それは知りたいなと思うような疑問から入っているのですけれども、こういうふうに教科書を開いたときに、ああ、そうそう、そう思う、なんでだろうというようなことが載っているという、楽しく疑問を解決したい、知りたいと思うような好奇心を喚起するようところから始まっているというのがとてもいいと思います。

この教科書を開いて、子どもたちがきっとわくわくするのではないかなと思います。理科の楽しさを感じたり、疑問を持ったりすることの大切さをこの教科書は学ぶことにつながるのではないかなと思いますのでとてもよいと思いました。

野村教育長 ここまで各委員の皆様から授業において、理科の見方・考え方を働かせること、学ぶことの動機付けの大切さ、こうしたことについて東京書籍のよい点についてのお話がありましたが、皆様、ほかにご意見はいかがでしょうか。

岩田委員 私もほかの委員の方と同じように理科の見方、考え方を働かせながら問題解決を進めていくという意味で、東京書籍の教科書の方が適切かなと思いました。

野村教育長 ここまでの意見をまとめますと、東京書籍が優れているというご意見が多いようですが、理科について、東京書籍の『新しい理科』を採択する、こうしたことでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

野村教育長 ご異議ございませんので、理科については、東京書籍の『新しい理科』を採択することにいたします。

教科書を入れ替えますので、暫時休憩いたします。

(休憩・15:55～15:57)

野村教育長 では、再開をいたします。

次に、生活の採択に入ります。説明をお願いします。

細川学校教育部長 報告の前に1点、お詫びと資料の訂正をお願い申し上げます。

大変恐縮ではございますが、お手元でございます議案第17号 参考資料3、こちらでございます。令和2年度相模原市立小学校使用教科用図書調査研究検討結果報告書、恐れ入りますが、33ページをご覧いただきたいと存じます。

1番下段でございます、観点の15になりますが、優れている点というところの表記の中の1番最後の行になります。そちらに「すあとぶっくP.9」と表記してございますが、正しくは「すたあとぶっくP.9」でございます。

大変申し訳ございません。お手数をおかけしますがお詫びを申し上げますとともに資料の訂正をお願いいたします。

以上でございます。

野村教育長 では、続いて説明をお願いします。

浅倉教育センター所長 続きまして、生活の報告をさせていただきます。

生活科は、8者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、幼児期の教育との接続、中学年以降の各教科への接続が意識されているもの、生活上必要な習慣や技能の習得への工夫が配慮されているもの、具体的な活動や体験と思考や表現が繰り返し行われ、気づきの質を高める工夫がなされているものとなっております。また、他教科との関連も意識されているものとなっております。

検討委員会では、幼児期の教育との関連や、体験活動と表現活動を相互に繰り返しながら学習活動の質を高めたり、気づきを自覚したり関連付けたりして気づきの質を高める配慮がなされているか、という点等を重視し、検討が行われました。

検討の結果、東京書籍の『あたらしいせいかつ』と啓林館の『わくわく せいかつ』、『いきいき せいかつ』が推薦されました。

初めに、東京書籍について、ご説明いたします。観点15について、上巻の4ページから、A16の附箋がついている箇所をご覧ください。

「がっこう せいかつ すたあと」のページでは、挿し絵や吹き出しで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が具体的に示され、幼児期の教育との円滑な接続に配慮され

ております。

また観点13につきまして、下巻15ページになります、A10の附箋がついている箇所をご覧ください。

児童が気づきをもとに対話をする「学びをふかめる」というコーナーがあり、対話的な学びによって児童の気づきの質が高まり学びが深まる姿が想起されるよう配慮されております。

続いて、啓林館でございます。

観点15について、上巻巻頭でございます、「がっこう だいすき あいうえお」9ページ、G13の附箋がついている箇所をご覧ください。

手遊び歌などが紹介されており、幼児期の経験を想起させる配慮がなされております。また、QRコードと呼ばれる二次元コードを読み込むことで、遊び方を参考にすることや曲の速さを変えて聞いたりすることができます。

続きまして、観点13について、上巻92ページ、G10の附箋がついている箇所をご覧ください。

思考ツールの考え方の例示により、子どもの気づきを分類し、可視化することで、気づきの質を高めるよう配慮されております。

以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

野村教育長 説明が終わりましたので、これより質疑、ご意見がありましたらお願いをいたします。

岩田委員 最初に、相模原市における生活科の授業の現状と授業で大切にしていることを教えてください。

遠田教育センター指導主事 本市の現状として、具体的な活動や体験を重視した授業が多く見られる一方で、気づきの質を高めるための手立てが十分でない授業も見られます。

生活科の授業では、児童が思いや願いを持ち、活動や体験を通して感じたことや考えたことを表現することや、また単元の中で体験活動と表現活動等を繰り返して、児童の学びの質を高めていくことが望まれます。

岩田委員 では、市が目指している授業に向けて、今回の教科書で、どんな特徴的な部分がありましたでしょうか。

遠田教育センター指導主事 東京書籍では、上巻34ページから35ページに観察カードの書き方の多様な例示とともに、カードへの教師の共感的理解を通して、「みつける」、

「くらべる」、「たとえる」ことに視点を当てて、気づきの質を高める配慮がなされております。

啓林館では、上巻126ページなどにまとめ方や発表の仕方の多様な例示があり、体験したことを表現する方法が児童にとって分かりやすい配慮がなされております。

永井(廣)委員 私、昔、新入生応援団といって、学校で新入生を1カ月間、教えるというか、先生の手助けをして教室に入って、お手伝いをするというボランティアを5年にわたってやらせていただいたことがあるのですが、その経験なども踏まえますと、まず「がっこう せいかつ すたあと」として、児童が入学して、まず教えるべきことや身につけるべきことの記載が充実しているのは、東京書籍の教科書だと思いました。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」というコラムは保護者向けに書かれているものですね。保護者が教科書を読むということが前提となっているということでしょうか。

遠田教育センター指導主事 保護者向けの文言も記載されておりますが、児童もイラストや吹き出しの文言を見ることで保育園、幼稚園、こども園での活動を想起できると考えております。「こども園」という文言が入っていることも東京書籍の特徴でございます。

平岩委員 啓林館の最初の方で、「遊ぼう・一緒にできるかな・探検しよう」ですとか、行動を促すのが、これは基本になっているのだと思います。一方、東京書籍では、「学校の1日」として学校生活についての理解を深めるようになっています。

考えてみますと学校というのは子どもたちにとって初めて出会う場、子どもにとって大きな社会になると思うのですが、そういった意味で、子どもが自分のこととして学校生活の流れをつかむというのは、これは全て基本になると思います。ですから、東京書籍の方の導き方というのは、とてもいいなと思いました。

また、教科書のイラストも重要だと思うのですが、絵などの表現というのは、多分、教科書などを使っていて知らず知らずに子どもに染み込んでいくものだと思いますので、東京書籍の教科書で描かれている人物の動きが大変自然で、これはいいなと思いました。

永井教育長職務代理者 先ほど、保護者についての発言がありました。生活科は、家庭の協力をお願いするという、こういう場面も数多くあると思います。

現在、様々な家庭の状況がある中で家庭事情等、何か配慮が、こういったものがあるのか、お聞かせいただきたいと思います。

遠田教育センター指導主事 東京書籍では、上巻83ページから89ページ、「じぶんで

できるよ」の単元で、家庭生活・学校生活両面において、自分自身でできることに着目することで「自分の役割を果たす」、「規則正しく健康に気を付けて生活する」という内容を押さえた単元構成になっております。多様な家庭事情に配慮された内容となっております。

永井（廣）委員 多様な家庭事情への配慮というのは、とても大切なことだと思います。また自分でできることをしようなどの児童が主体的に取り組むことができる単元構成になっているのは、とてもよいと思います。

岩田委員 私もこのイラストのところで、お父さんがお片づけをしていたり、おじいさんかな、男性の人が食器を洗ったりというようなところで、従来のジェンダーの形で、女性の、お母さんが洗っているとか、お母さんが食器を片づけているといったものではないという、こういった表し方はいいなと思いました。

もう1つ別の点で質問なのですが、気づきの質を高める工夫というのは、これは結構難しいものかなと思っているのですが、先ほど説明以外にもそれぞれの教科書について特徴があれば教えていただきたいと思います。

遠田教育センター指導主事 東京書籍では、「対話的な学び」の様子が丁寧に書かれており、学んだこと、感じたこと、考えたことを伝え合う対話の場面が多いことが特徴です。新しい学習指導要領解説でも、伝え合い交流する中で、気づきの質を高めていくことは重要であると考えられております。

啓林館では、どの単元でも、見開きページの左上に「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」というステップが繰り返し提示されている工夫があり、児童が学習に対して見通しを持つことができ、学びの深まりが期待できます。

永井教育長職務代理者 生活科においては、友だちと対話することとか、友だち同士の関わりや交流を通して、児童が自分自身で様々な点に気づき、気づきの質を高めることが重要なことだなと感じました。

そういう意味では東京書籍の教科書は、気づきの質を高める工夫がなされていて、とても分かりやすい内容になっているのではないのでしょうか。

また、若い先生が増えているという本市の状況の中で、丁寧につくられている教科書も必要かもしれないと思っています。ベテランの先生方は、その中から工夫した授業をされるでしょうし、このようなことを思いました。

大山委員 今、永井教育長職務代理者のお話を伺いまして、私も同じように感じました。

子どもたちには、自由な発想で気づいたことを大切にしてほしいと思いますし、気づきを引き出すような指導を先生方にしていただきたいなと思います。

野村教育長 ここまで各委員の皆様から様々な視点からご意見をいただきました。今、対話することが気づきの質を高めることにつながるという永井教育長職務代理者がご意見をまとめていただきましたが、皆様、ご意見はいかがでしょうか。

全体的には東京書籍を薦める意見、これが全体の流れだったと受け取りましたが、ほかにはご意見はないでしょうか。

(「なし」の声あり)

野村教育長 それでは、生活については、東京書籍の『新しい生活』を採択する、このことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

野村教育長 ではご異議ございませんので、生活については、東京書籍の『新しい生活』を採択することにいたします。

ここで改めて教科書を入れ替えますので、暫時休憩いたします。

(休憩・16:13～16:15)

野村教育長 では、再開いたします。

続いて、音楽の採択に入ります。説明をお願いします。

浅倉教育センター所長 それでは、音楽の報告をさせていただきます。

音楽科は、2者から教科書が発行されております。特徴といたしましては、どちらの教科書も、各教科との関連が図られており、音や音楽と生活や社会とのかかわりを考えることができるよう構成されております。また、紙面上の2次元コードを読み取ることによって、学習をサポートするコンテンツをICT機器で閲覧できるようにするという工夫が見られました。

検討委員会では、「曲想と音楽の構造などのかかわりについて理解するとともに、表現したい音楽表現をするために必要な技能を身につけ、表現したいイメージを持てるよう配慮されているか。」という点と、「児童が楽しく音楽に関わり、音楽を学習する喜びを得ることができ、音楽に感動するような体験を積み重ねられるような内容であるか。」という点などを重視し、検討が行われました。

検討の結果、教育出版『小学音楽 音楽のおくりもの』と教育芸術社『小学生の音楽』が推薦されました。

初めに、教育出版でございますが、観点9につきまして、3年の9ページ、5年の31ページ、2冊開いていただきたいと思いますが、A5の附箋がついている箇所をご覧ください。

透明シートがあるため、児童がオーケストラの位置関係を学ぶときに使いやすいように配慮されています。また、3年の教科書には書き込みもできるようになっているため、児童が取り組みやすい工夫がされています。

続きまして、観点14につきまして、2年4、5ページA13の附箋がついているところをご覧ください。

歌声やリズムのトレーニングができる教材が2年生から6年生に取り扱われています。このような歌やリズムのトレーニングは、常時活動などで行われ、児童が楽しく音楽に関わることができる内容となっております。

続いて、教育芸術社でございます。観点12につきまして、6年の教科書をお開きいただきたいと思いますが、6年、35ページB12の附箋がついている箇所をご覧ください。

歌唱において、感じたこと気づいたことを教科書に記述でき、比較しながら考え、曲想や音楽の構造について理解する内容となっております。

観点14につきまして、1年54、55ページB17の附箋がついている箇所をご覧ください。

児童がイメージを膨らませやすい挿し絵があり、鑑賞の学習において音楽に感動する体験の一助となる内容となっております。

以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

野村教育長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見があれば、お願いいたします。

大山委員 音楽教育の特性や、また、子どもたちの持つ課題等につきまして、相模原市の事情を説明いただきたいと思います。

上田教育センター指導主事 音楽教育の特性は「感性を育む」ことを意識するという事です。音楽に対する感性は、豊かな心を育む基盤となるものです。

本市の子ども達には、自己肯定感が低いという課題があります。音楽は、表現する場面が多く、心を許しあう仲間でないとなかなか自分を解放して表現活動を行うということが難しい教科です。

本市では、みんなで歌い合わせる授業などで、歌う喜びを感じ、自信を持って声を出す喜びを味わうような体験を積み重ねることで、自己肯定感を高めていこうと考えておりま

す。

平岩委員 事情は今、分かりましたけど、そうしましたら相模原市において授業で大切にしていることとといいますか、目指す授業像みたいなものを教えてください。

上田教育センター指導主事 目指す授業像としましては、音楽の楽しさを求め、生き生きと表現活動に取り組める授業展開を目指し、音楽を学習する喜びや音楽に感動する体験を積み重ねることが大切です。

そのためには、表現の領域と、鑑賞の領域を関連させ、発達段階を考慮して、バランスよく段階的に積み重ねる授業が求められます。

永井（廣）委員 相模原市内では、小学校においても専科の先生が指導する場合もあると思いますが、その割合はどのくらいでしょうか。

上田教育センター指導主事 専科の先生は少なく、学級担任の教員が音楽を教えることが多いです。

そのため、ピアノ等の楽器を演奏できるとは限らず、パソコンの音源やCDなどを使用して授業を行っています。

平岩委員 2つの教科書を比べまして、私、教育出版の教科書、一番最後、巻末に掲載されている「にっぽんの歌 みんなの歌」はとても、これはいいと思いました。世代を超えて歌い継ぐ日本の音楽というのは、音楽の教科書が重要な役割を負っていると思います。

仕事柄、小学生から大学生と接する機会が大変多いのですけれども、日本の伝統的な歌とといいますか、昔から歌い継いできている、そういう歌を知らない子どもがとても多く、ちょっとそれは危惧している面なのです。

そういった意味で、教育出版は、歌い継ぐ音楽が巻末にまとめられていまして、子どもたちにとって、これは印象に残りますので大変いいと思います。

岩田委員 今の平岩委員と同じ内容になるのですが、見ていくと教育芸術社にも、「歌いっごう 日本の歌」という箇所として、どの学年においても2、3曲日本の歌を扱っているのかなと思います。

そして、平岩委員がおっしゃるように、日本の歌が将来にわたって日本の曲が歌い継がれていくことは大事だということで、両方とも教科書で取り上げられていることが大事だなと思いました。

平岩委員 相模原市として目指している音楽授業に向けてなのですが、今回の教科書で特徴的な部分があったら教えてください。

上田教育センター指導主事 教育出版の教科書、2年73ページ、3年76ページ、A2の附箋がついている箇所をご覧ください。

「音楽を表すいろいろな言葉」を載せることで、誰もが音楽を言葉で表現できるよう工夫されています。

また、3年77ページA6の附箋がついている箇所をご覧ください。

折込を使ったワイドな紙面で、巻末のリコーダーの指使い表を練習中に開いたまま見ながら使える仕組みとなっております。

教育芸術社、4年56ページから59ページB14の附箋がついている箇所をご覧ください。

楽器について丁寧に説明されています。箏という学期は、爪の形の違いから座り方や奏法も違います。爪の形だけでなく、それら全ての違いについて、写真を用いながら分かりやすく説明しています。

また、6年10ページから15ページ、B9の附箋がついている箇所をご覧ください。

題材と学習目標が見やすく配置されています。音楽を形づくっている要素を中心に、各教材が結びつけられて構成されることで、子ども達の学びがつながっていくと考えています。

大山委員 先ほど、音楽科の課題として指摘された点があったのですが、児童が関心を持ちまして主体的に音楽の授業に臨むためには、丁寧に分かりやすい内容であることは重要だと思います。また、何を学ぶかが明確になることで、見通しを持って取り組むことができる教材だと言うことができるのではないかと思います。

永井(廣)委員 分かりやすいことが大切であるというのは、本当に同感です。教育芸術社の教科書では、リコーダーのところで、楽器の手入れの仕方が具体的で分かりやすく記載されています。楽器を扱う上で大切なことが書かれていると思います。

先ほど説明があった、箏、いわゆるお琴というものについてのほかにも、多くの楽器の持ち方、姿勢、鳴らし方などが分かりやすく記載されていて、教科書のつくり丁寧に感じました。

岩田委員 音楽の授業の中でも、「音楽づくり」の授業というのは、指導する上で難しい実態があると聞いているのですが、それは教科書中では、どのように扱われているのでしょうか。

上田教育センター指導主事 音楽づくりの授業は、高度なメロディを作曲させたりするイ

メージが強く、歌唱や器楽といった分野に比べて、指導に難しさを感じる分野です。教育出版の音楽づくりでは、循環コードの言葉の意味を示したり、アドリブの例を紹介しています。

教育芸術社の音楽づくりでは、発達段階に応じてグループ学習を発展させたり、音の上がり下がりの例を図で表したりするなどの工夫がなされています。

岩田委員 教育芸術社の方の教科書は、曲づくりの中で音の上がり下がりを見せるという工夫で、先ほどの一連の評価にあったような分かりやすさを大切にしていることは理解できました。分量的もちょうどいいのかなと思いました。

大山委員 先ほど、本市では生き生きと表現活動に取り組める授業展開を目指しているという話がございましたが、この教科書であれば本市の子ども達取り組みやすいように思いました。

岩田委員 すみません、音楽づくりの分野にこだわるのですが、音楽をつくるということが楽しいということを契機として、音楽だけではなくて、ほかのところの創作の領域についても意欲的につながっていくとなると、それはいいなと思いました。

野村教育長 それぞれの教科について様々な視点からご意見をいただきました。丁寧さ、分かりやすさ、取り組みやすさ等についてのお話でございました。

今までの意見交換、それぞれの会社を推す意見がありましたけど、改めてご意見があればお願いをいたします。

平岩委員 私、音楽の授業というのは、子どもたちの感性を育てるとするのがとても大切なことではないかと思います。

そうしますと、分かりやすくとか、詳しく、丁寧、もちろん大事なことなのですが、それだけかなとちょっと感じておりました。

ただ、例えば楽器に接する機会は家庭環境によっても差があるようですし、そういうことを考えますと、今、皆様のご意見を伺ってしまして、詳しく丁寧でという視点で、教育芸術社も評価できるのかなと感じました。

野村教育長 ほかにございますか。

ここまでの皆さんの意見を総合しますと、教育芸術社がよいという意見が多いように受け取りましたがいかがでしょうか。音楽について、教育芸術社の『小学生の音楽』を採択するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

野村教育長 では、ご異議ございませんので、音楽については、教育芸術社の『小学生の音楽』を採択することにいたします。

続いて、保健の採択に入ります。説明をお願いします。

浅倉教育センター所長 それでは、保健の報告をさせていただきます。

保健は、5者から教科書が発行されております。全体的な特徴としましては、新学習指導要領解説に示されている「主体的・対話的で深い学び」を想定した授業づくりがなされるよう、課題解決学習を通して実践的な態度を育てようとする内容のものが多く見られました。また、保健の見方・考え方を働かせて資質・能力の3つの柱を育成するための工夫が、各者で見られました。

検討委員会では、「学んでいることと自己の将来とのつながりを見通すことができ、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる力を身につけることができる内容が扱われ、また学び方が適切になされるものであるか」、「主体的に自己の健康課題を解決しようとする態度」を重視し、検討が行われました。

検討の結果、東京書籍の『新しい保健』と光文書院の『小学保健』が推薦されました。

初めに、東京書籍でございます。観点11について、3、4年の1ページと5、6年の80ページ、2つの教科書になりますがA8の附箋がついているページをご覧ください。

3年と6年で同じ問いを扱い、子ども自身が自分の成長を実感できたり、小学校での学びと将来とのつながりに気づかせたりする内容となっております。

次に観点14について、5、6年の43、44、45ページになります、A16の附箋がついているページをご覧ください。

43ページの豊富な資料をもとに、実際のけがの場面を想定し、手当ての方法を考えさせ、実生活の場面でも実践力を養える内容となっております。

続いて、光文書院についてご説明いたします。観点11について、5、6年の10、11ページ、D9の附箋がついているページをご覧ください。

イラストや図を用い、心の成長について、見開きで様々な経験や学習を通して発達していく様子が分かる内容となっております。

次に、観点14について、3、4年生の2ページをご覧ください。

保健を学習することの大切さ、実生活との結びつきについて、イラストを用いて示されています。子どもたちが分かりやすく保健を学ぶ意味について触れることができる内容となっております。

以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

野村教育長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見がありましたらお願いをいたします。

平岩委員 最初に教えていただきたいことがあります。体育の中の保健領域というのでしょうか、その年間の授業数、授業時間について教えてください。

それに加えまして、相模原市の保健の授業の現状をお伺いします。

山上教育センター指導主事 保健の授業は3、4年では、2学年間で8単位時間程度、また、5、6年では、2学年間で16単位時間程度となっています。限られた時間の中でどのように主体的、対話的で深い学びの学習を実現するべきか試行錯誤している状況と捉えています。

平岩委員 今、伺って、大変に限られた時間ということが分かるのですが、そうしますと、体育の授業の中で保健の指導というのはどのように進めていくのでしょうか。

山上教育センター指導主事 学校生活や、日常生活において、児童自身が健康に関する課題を解決していくといった課題解決的な学習が大切であると考えております。

岩田委員 全科目を通して聞いているのですが、今、伺った相模原市が目指している授業に向けて、今回の教科書に特徴的な部分というのはありましたでしょうか。

山上教育センター指導主事 本市では、学んだことを生かし、将来に向け主体的に学ぶ姿勢を育む授業を目指しております。この点について、2者とも表紙の裏のページから見られるように、児童が健康への関心を高めたり、主体的に学習に取り組んだりできるように各所で工夫が見られております。

平岩委員 その工夫ということで気づいたことなのですが東京書籍の教科書にあるDマークは、インターネットを活用した学習ができる、教科書に記載しきれないことを補完できるという意味で、これはいいなと思います。

それから、光文書院の方ですけれども、3、4年用の教科書には、スマートフォンの使い方と生活のリズムというのがありますが、このスマートフォンが体にどのような影響があるのか記載されていまして、これも大変にいいなと思いました。

東京書籍、光文書院、どちらもなのですが、「心の健康について」の記載があって、これもどちらも大変いいなと感じております。

永井(廣)委員 東京書籍の教科書では、「体の部分の名前」として日本語と英語によって示されています。ほかの教科との関連はもちろんですが、外国につながるお子さんが増

えている中で、学校生活の中で保健室に行きたい場面において、このような情報が助けになることもあるかもしれないと感じました。

また、光文書院の教科書では、3、4年の教科書でLGBTなどの性の悩みについて丁寧に記載されているのがとてもよいと思いました。東京書籍では、3、4年の教科書の、「思春期にあらわれる変化」のところで、それが5、6年の教科書の学習内容と関連していることが示されています。2者ともに、不安や悩みの対処法についてや、連絡先についてなどは丁寧に取り上げられているので、これはとてもよいと思いました。

また、東京書籍では、3、4年の教科書に手の洗い方というのが、写真を使ってとても分かりやすく説明されており、洗ったつもりになって、全然きれいになっていない場合も多いので、これができるように洗う必要があるということを学べてこれもとてもよいと思いました。

岩田委員 東京書籍の中の、「体の成長とわたし」の単元の中で1歳ごろの赤ちゃんの手が実際の大きさが掲載されていると思います。先ほど、別の単元で、胎児の実際の大きさもあったように、やはり実際の赤ちゃんの大きさが示されるとなると、学ぶ児童本人が現在の自分の手の大きさと比べっこして、やはり赤ちゃんに対するリアルなイメージとか、命の大切さみたいなことを感じる機会にもなって、その後の学習の動機付けにもなっていくのではないかなと思い、これは効果的かなと思いました。

1つ質問なのですが、性教育とか、今言った命の大切さみたいなものについて、2者の教科書ではどのような記載がされているのでしょうか。

山上教育センター指導主事 性教育については、4年で学習する「体の発育・発達」の内容が特に関連していると考えられます。

東京書籍では、3、4年の24ページから41ページ、光文書院では、3、4年の23ページから41ページの内容がこれに当たります。児童によっては抵抗を感じがちな学習内容ですが、2者とも子どもに抵抗が少ないようにイラストや記述への配慮がなされています。

命の大切さについては、保健の学習の全てが関わることでであると認識しております。この点においても、問いかけ方や資料の表現で2者とも配慮されております。例えば、東京書籍の3、4年の36ページ、光文書院の3、4年生の33ページ、これが当たると考えられます。

大山委員 東京書籍の教科書では、相模原市の課題である生活習慣に関して、健康によい

1日の生活について考えさせる際、元気な生活と元気のない生活を分かりやすく比べておりまして、自分の生活を見直せるようにもなっております。

そして、3、4年生の教科書の体の成長の部分の記載については、私の専門の立場からいうと非常に大切だと感じておりまして、その部分について正しく表しているかどうか、留意する必要があるなと思いました。

その理由というのは、体の発育というのがすごく大切でありまして、子ども自身にとって、それを保健の授業で学ぶことが非常に大切なことだと私自身、感じております。

今回、保健の教科書を見まして、校医として、あるいは「成長の専門医」として教科書を見させていただきましても、コンパクトなページの中に内容を詰め込むということで、難しいのは重々分かるのですけれども、どこかの流れでもって、1つ足りないのかな、構成をこうしたらいいのかなというところが、今回、閲覧させていただいて、分かりました。

特に、2年前からは学校検診に成長曲線の活用というのが導入されましたから成長に関する教科書におきまして、成長に関する記載というのは、十分な配慮が必要ではないかと感じました。

続きまして、また東京書籍の教科書では、学習課題が毎時間、明確に設定されておりまして、課題解決のための活動も分かりやすく書かれておりました。子どもは見通しを持ちやすく、意欲的に学習に取り組むことができますし、授業時間数が少ない中で、先生方が確実に押さえるべき内容を指導することができるのではないかと考えております。

野村教育長 今、大山委員が全体をまとめる意見を述べていただきましたが、皆さん、ほかにご意見はございませんか。

(「なし」の声あり)

野村教育長 全体的なご意見を総括すると、東京書籍がよろしいのではないかと受け取りました。

保健については、東京書籍の『新しい保健』を採択することでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

野村教育長 ご異議ございませんので、保健については、東京書籍の『新しい保健』を採択することにいたします。

ここまで、本日、小学校13種のうち、7種の採択を終えました。

お諮りをさせていただきます。本日の会議はこの程度にとどめまして、延会することと

いたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

野村教育長 では、ご異議ございませんので、本日はこれをもって延会いたします。次回は、8月2日、金曜日、午後2時30分より開くことにいたします。

ありがとうございました。

延 会

午後4時48分 延会